

施策 5 高齢化等の社会状況に対応した適正な収集・運搬

(1) 超高齢社会への対応 (計画書 P40)

A 事業	B 取り組み内容	C H29.4 方針	D 進捗状況	E 効果、課題・問題点等	F R5.4 方針 (案)	G 見直し (案)
① 高齢者などを対象とした収集体制の見直し	<p>自力での集積所へのごみ出し困難者を対象とした戸別収集 (ふれあい収集) を実施</p> <p><概要> ご高齢の方や障がい等をお持ちの方で「ごみ・資源」を集積所に出すことが難しい方を対象に、自宅の門前や玄関前でごみを収集する戸別収集 (ふれあい収集) を実施しています。</p>	継続	<p>●次に掲げる世帯のうち、自ら集積所までごみ等を持ち出すことが困難で、身近な人の協力を得られない以下の世帯が対象。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おむね 65 歳以上の 1 人暮らしの世帯 ・障がい者のみを構成員とする世帯 ・その他管理者が必要と認める世帯 <p>【収集件数実績】</p> <p>R3 80 件 R2 91 件 R1 81 件 H30 58 件 H29 50 件</p>	<p>●R3 年度には高齢化率が 32.3%、ふれあい収集の件数も過去 10 年間で増加率 2.35 倍 (H23 年度 34 件→R3 年度 80 件) となっている。今後も需要の高まりにより、さらにふれあい収集の希望者が増えることが考えられる。</p> <p>●現在はごみ集積所の 1 つとして通常の収集ラインに組み込んでいるが、ふれあい収集の作業量が増えることにより通常の収集作業に影響を及ぼす恐れがある。</p>	継続	●庁内の関係部門との連携、地域との連携を視野に入れながら継続して実施する。
	<p>紙おむつの指定袋以外の透明袋での収集を継続</p> <p><概要> 使用済み紙おむつ・尿とりパッドについて、指定袋を使用せず透明または無色半透明袋での収集を可能としています。</p>	継続	<p>●紙おむつや尿とりパッドは指定袋を使用せず透明または無色半透明袋に入れて出すことが可能</p> <p>●指定袋購入不要とすることで経済的負担の軽減につなげるため透明袋の使用を可としている。</p>	●日常で排出されるものであるため、該当する世帯の経済的負担軽減に繋がっている。	継続	●庁内の関係部門との連携を行い、該当世帯への周知を行う。
	<p>(★) 布おむつ使用の推進</p> <p><概要> 使い捨ての紙おむつではなく、繰り返し使用できる布おむつの使用を推進します。</p>	推進	●事業の実施はない。	<p>●繰り返し使用できるので、環境に優しい。</p> <p>●洗濯等のお手入れが面倒なことが難点。</p>	集約	●多様なリデュースの手法の 1 つとして施策 1 (1) ①ごみの減量化に向けた意識の向上「4Rの推進」に集約。

A 事業	B 取り組み内容		C H29.4 方針	D 進捗状況	E 効果、課題・問題点等	F R5.4 方針 (案)	G 見直し(案)
② 全戸を対象とした戸別収集の導入の検討	4	<p>(★) 戸別収集について、他市町の成果を調査・研究</p> <p><概要> 町内の全世帯のごみを、すべて戸別に集める方式とする場合の、メリット・デメリットの検討、先進事例の情報収集などを行い、有効性の検討を行います。</p>	推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者・障がい者を対象とした戸別収集（ふれあい収集）を実施 ● 全戸を対象とした戸別収集については、情報収集や検討は進んでいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全戸を対象とした戸別収集は経費の増や、収集効率の悪化が懸念される。 	集約	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者・障がい者のごみ出し支援である、ふれあい収集に重点を置き、同施策の取り組み内容1「自力での集積所へのごみ出し困難者を対象とした戸別収集（ふれあい収集）を実施」へ集約。

★：これまでの取り組みに加えて実施する、あるいは特に力を入れて実施する取り組み（H29.4策定時）